第 56 回 Society of Toxicology（SOT）学術年会派遣報告①
－ Continuing Education Courses に参加して －

株式会社ボゾリサーチセンター　安全性・薬理研究部　**八舟　宏典**

日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業として，第 56 回 SOT 学術年会に参加させて頂きました。学術年会は 2017 年 3 月 12 日から 16 日の日程で，メリーランド州ボルチモアのボルチモアコンベンションセンターで開催され，私は教育コースの「Technologies and Applications of Stem Cells for Use in Toxicology」および「Detecting Cancer Risk in Drugs: Design, Conduct, and Interpretation of Carcinogenicity Studies for Regulatory Approvals」の 2 コースを受講させて頂きました。

前者のコースでの参加者は学生などの比較的若い研究者だけでなく，年配の方々の姿もみられ，再生医療を研究する上で非常に注目を集めているテーマであることが実感されました。内容としては，ES 細胞や iPS 細胞の性質，形態，作製方法などの基礎的な内容に始まり，niche な環境やエピジェネティックな制御が紹介され，ヒト病態モデルの構築，ヒト由来 iPS 細胞モデルにおける毒性メカニズムの評価手法についても具体例を挙げての説明があり，非常に参考になりました。また，Organ-on-a-chip を用いた人工臓器の再現についての技術は新規のヒト由来幹細胞を用いた *in vitro* の試験評価系の構築として期待できるものであると感じました。

後者のコースでは，FDA など米国の規制当局からのがん原性試験の試験デザイン，アプローチの方法などの解説があり，rasH2 マウスを用いた短期発がん性試験のデザイン，既存物質の検出力，また病理組織の背景についての紹介がありました。また，規制当局のがん原性試験についての見解を聞くことができたのは非常に有益でした。

今回，SOT に派遣し，教育コースの受講させて頂き，様々な分野の最新情報を収集することができました。国際学会に参加し最新の毒性学の情報を収集するだけでなく，その分野の先端の研究をされている先生方の話しを直に聞ける点でも非常に貴重な経験をさせて頂くことができました。最後に，今回の教育コースへの参加の機会を与えて頂いた日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様，また参加にあたり社内業務のフォローをして頂いた皆様に深く感謝申し上げます。